

小山田地域の小・中学校の存続<sup>を求め</sup>に関する請願

【 請願の要旨 】

2021年3月26日、「まちだの新たな学校づくり協議会」は町田市立学校の統廃合について最終答申をまとめました。小山田小学校は2031年、小山田中学校は2037年に統合され、廃校にされる想定となっています。

小山田小学校の歴史は古く、忠生尋常高等小学校の小山田分教場として開校し、111年の歴史があります。また、小山田中学校は、桜台団地の建設に伴って1984年に設置され38年の歴史を刻んでいる学校です。

1. 子どもの負担が大きくなります。

小山田小の通学路について実際に歩いて調べてみました。多摩丘陵病院から大人の足で、大泉寺門前まで31分、そこから小山田南小学校まで33分。合せて1時間4分かかります。また、大妻女子大のある所からは大人の足で45分かかるとわかりました。

重たいランドセルを背負って小さな子どもたちが今よりもさらに遠い道のりを歩くことになり、大きな負担を強いる事になります。

2. どの子どもも少人数学級で丁寧な教育を

文科省は、公立小学校の学級編成について、2021年度から5年かけて35人に引き下げると発表しました。今ある学校を存続させて少人数学級を実現し、どの子ども一人ひとりが主人公になれる教育が行われること。また、コロナウィルスなど感染拡大に備えるためにも密にならない環境整備が必要です。

3. 学校は災害拠点

気候の温暖化による台風の巨大化、熱中症の増加、巨大地震などで学校は住民にとってなくてはならない防災拠点です。体育館のクーラー設置、校舎の耐震化が進められてきており、学校はいざ災害が発生した場合の大事なよりどころです。

実際、小山田南小は、小山田桜台2丁目、小山田中は、小山田桜台1丁目が避難先となっており、小山田中学校が廃校となってしまうと、この地域の防災拠点が無くなることとなります。

4. 学校は地域の宝、心のふるさと

運動会や学芸会などの学校行事、PTA活動を通じた父母の交流、体育館、グラウンドを利用した地域のスポーツ活動など、地域のコミュニティにとって大きな役割を果たしています。地域から学校が無くなってしまえば、コミュニティの場の1つが喪失することになります。

卒業生にとっても、自分たちの少年少女時代を過ごした心のふるさとが無くなって

しまうこととなります。

#### 5. 子育て世代にとって必要条件

緑豊かな環境に加えて保育園から中学校まであることから、子育てには最適の所と考えこの地に住むことを選んでいます。

小山田桜台団地のまちづくり構想では、しっかり中学校が位置づけられており、子どもの居場所づくりなど、多世代交流が基本コンセプトになっています。

中学校がこの地域から無くなってしまえば、子育てをしている世代にとって魅力のない地域になってしまいます。若者が住まず、益々この地域の高齢化が進んでしまうのではないのでしょうか。

#### 【 請願項目 】

小山田小学校・小山田中学校の統廃合計画を見直し、小山田小学校・小山田中学校を存続させてください。